「音読」で「定着」を深めよう・

―「音読」と「書き取り」で、定期試験 100 点をめざそう―

開倫塾
塾長　林　明夫

Q：「音読(おんどく)」とは、何ですか。

A：(林　明夫。以下略)「音読」とは、一度うんなるほどと「理解」した内容を「声に出して読むこと」です。

Q：「音読」と「書き取り」で「定期試験」100点をめざそうとありますが、何を「音読」すれば100点がとれるのですか。

A：「中間試験」や「期末試験」、「前期試験」や「後期試験」、「学年末試験」などのいわゆる「定期試験」で出題範囲として示されている教材のすべてが、「音読」の対象です。「教科書」、「副教材」、「問題集」、授業中にとった「ノート」、「資料集」、「プリント」などのうち、「定期試験」の試験範囲として示されたところをまずはすべて「音読」してみましょう。

Q：どのように「音読」したらよいのですか。

A：まずは机の上を整理してください。次に、「音読」するものを机の上に置きましょう。そして、「音読」する範囲を確認し、心を落ち着けてゆっくりゆっくりと声に出して読み始めてください。初めは、よく考えながら、区切りのよいところまでゆっくりゆっくり声に出して読んでみましょう。書いてあることがよくわからなくても、試験範囲はすべて一応「音読」し通してみることをお勧めします。

Q：「音読」を一通り終えたら、次はどのようにしたらよいのですか。

A：内容を確認しながら「音読」してみましょう。「語句」の意味がよくわからないときは、学校で一度習ったところでも、もう一度辞書や参考書を用いて調べてみると面白(おもしろ)いのでお勧めします。それでもわからないことがあれば、学校や開倫塾の先生に遠慮なく質問しましょう。

Q：「音読」は、何回くらいしたらよいのですか。

A：最低でも５回や 10 回は「音読」し、教科書や副教材、ノートに何が書いてあるかをよく復習することが大切です。

　一番よいのは、「音読」している間に書いてあることを隅(すみ)から隅まですっかり覚えてしまうことです。

Ｑ：そのようなことができるのですか。

Ａ：いくらでもできます。定期試験の範囲は狭いですから、全科目とも、「音読」をしながら教科書などに書いてあることは何から何まで覚えてしまいましょう。

　問題も、よく解けるようになったら、問題そのものと解答をそっくり覚えてしまうことです。問題を見た瞬間に、条件反射で解答が口をついて出てくるようになればしめたものです。

Ｑ：「書き取り」とは、何ですか。

Ａ：「音読」した内容の中で書けなそうな語句を「楷書(かいしょ)」で書けるようになるまで練習することを、「書き取り」といいます。

　教科書などの書体を「楷書」といいます。数字は、数学の教科書にある書体で書けるようにしてくださいね。英語は、ブロック体や筆記体の書き方を正確に身に付けましょう。マンガ字や自分勝手に崩した字は、テストのときに大量の答案用紙を採点する採点者がよく読めず、得点にならないことがあります。

Ｑ：最後に一言どうぞ。

Ａ：「音読、音読、また音読」で試験範囲の内容を隅から隅まですべて覚え、「書き取り、書き取り、また書き取り」で試験範囲の内容をすべて「楷書」で書けるまでにしましょう。

　今日から、試験問題が配られる１分前までこの方法で勉強すれば、全科目とも 100 点がとれます。

－ 2006 年 5 月 14 日、宇都宮大学図書館にて記す－